

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 2月 21日

所属・職名	政策情報学部・准教授	氏名	大久保優也
研究課題	アメリカ法学における「立法」と国家概念		
研究キーワード	アメリカ 連邦制 法社会学 司法審査 法の支配 社会国家	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>アメリカ法学において「立法」がどのように把握されてきたのか、また、その転機と考えられる 19 世紀後半から 20 世紀初頭において、どのような影響のもとに「立法」の意義が見出され、同時代のアメリカ法学が、いかなる学問的背景において、立法及び行政を中心とする社会国家を位置づけようとしたのか、またそれと対峙したのか解明を進めた。具体的には、アメリカ法学において、立法の重視を主導した、ロスコー・パウンドら、「社会学的法学」、すなわち、法社会学の起源ひとつでも言うべき研究が、ヨーロッパ、特に、ドイツ社会学やドイツ法学からいかなる影響を受け、どのような「社会」概念の下で、構築されたのか研究を進めた。以上のような立法の重視の影響の下、アメリカ社会を特徴づける自由主義国家としての性質が、20 世紀前後にいかなる法概念の下で変容したのか、あるいは、しなかったのか、自由主義国家の概念と、ヨーロッパの福祉国家概念の距離の中で、アメリカ法学がどのようにそれと関係し、それぞれの国家像に関与したのか明らかにしようとした。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>本年度内での論文の公刊、学会発表はなし。</p> <p>来年度において本年度の成果が公表される予定である。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>19 世紀アメリカ法学や行政法学、初期社会学の原典や、関連する研究、立法と司法などについての日本の法学研究に関する関連書籍の購入や文具代金に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし</p>			
(本文は <u>1ページ以内</u> にまとめること)			